



大正時代の温泉場の様子（東から撮影）
写真中央に㊦（マルカ）、奥に佐勘が見える

【秋保音頭と盆踊り】

昭和20年代半ば頃まではお盆になると、泉明寺の境内に櫓が組まれ、笛・太鼓の伴奏で「秋保音頭」を歌いながら、老若男女みんなで輪になって踊る光景が見られました。その後、会場は岩沼屋入口前・三叉路に移り、浴衣姿の温泉客らも加わり、仮装盆踊りなどで賑わいました(写真)。



盆踊りが中断した時期もありましたが、現在は秋保・里センターで開催される「秋保温泉夏祭り」で、秋保音頭の盆踊りが復活し、また様々な催しや出店、花火など、地元民をはじめ、温泉客など訪れるすべての人々に愛されているイベントとなっております。



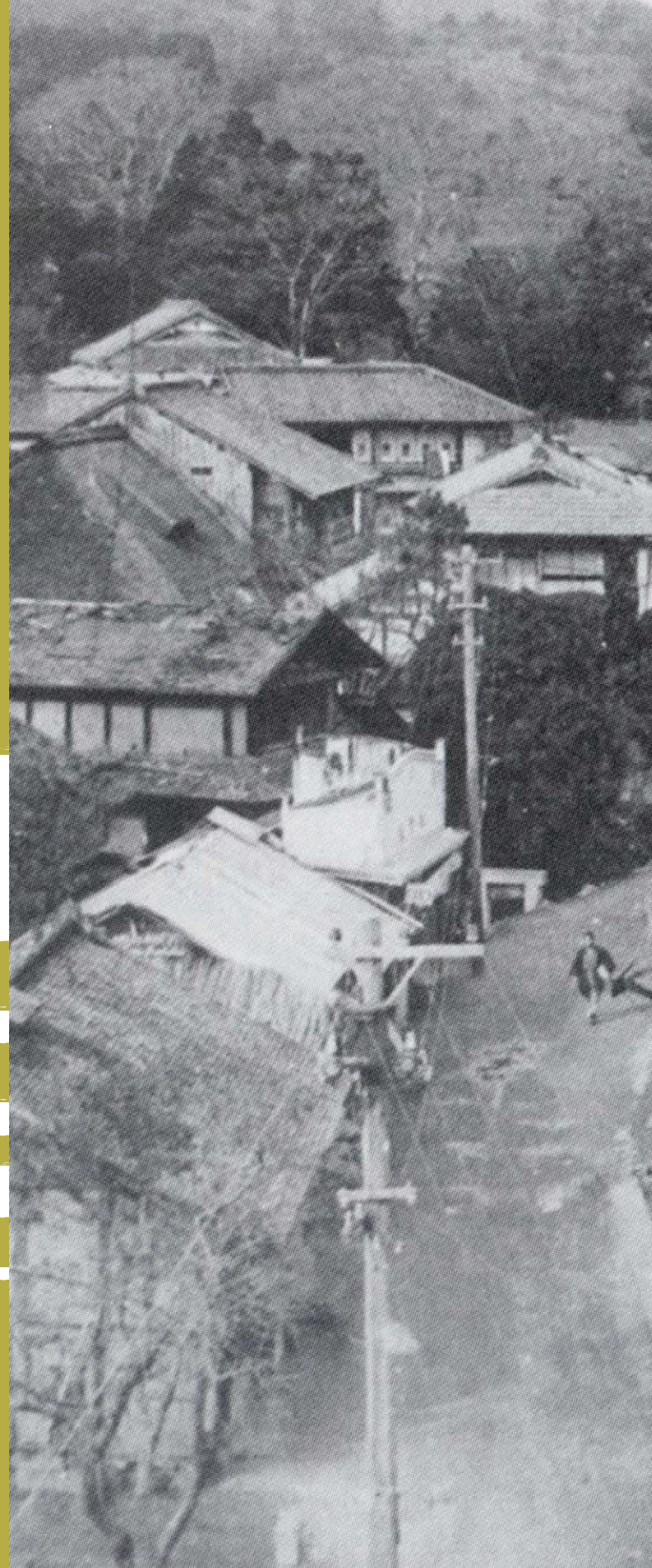
てくてく温泉場

いってみっぺ 秋保 てくてく温泉場

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連絡先：秋保総合支所総務課 (022-399-2111)
秋保市民センター (022-399-2316)

湯元地区の秋保温泉街
地元民は昔から元湯付近を
「温泉場」と呼んでいます。

「温泉場」の懐かしい写真を見ながら
タイムスリップした気持ちで散策してみては？



秋保温泉街の中心

古墳時代・欽明天皇の皮膚病を治したことから、「名取の御湯」のり、佐藤家(佐勘)が湯守として温泉を守り続けてきました。江戸時代正になると佐藤屋旅館や共同浴場ができ、利用者が増えてきた場として、2016年にはG7財務大臣中央銀行総裁会議が開催さ

「温泉場」をてくてくと

称号を賜り、名を轟かせた秋保温泉。当時源泉は佐勘の前にあ代になると源泉の周囲に岩沼屋・水戸屋の宿屋が増え、明治・また。そして現在、年間100万人以上の訪問者が利用する温泉れるなど、海外からも注目を浴びる温泉地となりつつあります。

掲載されている情報は、令和2年3月現在のものです。

訪れてみたい秋保
二口街道ツアー 62

No.11

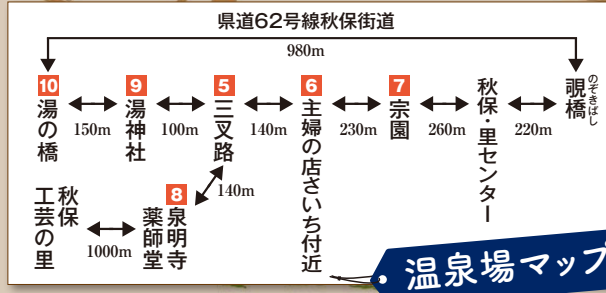
温泉場

温泉街の中心「温泉場」を昔の写真を見ながら散策してみましょう！



写真の一部は、秋保町史、伝承千年の宿佐勤、湯元小学校をはじめ、地元の方にもご提供・ご協力賜りました。

戦後までは湯の橋はなく、湯治客は視橋を渡り、温泉場中心部へ進みました。温泉場の中心を奥地として表現したいため、当MAPは上が西となっております。



1~4 元湯4軒 (1佐勤・2岩沼屋・3水戸屋・4佐藤屋旅館)

旧源泉の周辺に並ぶ元湯4軒。佐勤は伝承1000年とされ、江戸時代には秋保温泉の湯守として源泉を守り続けてきました。また、江戸期には岩沼屋・水戸屋、そして佐藤屋旅館(当初はみせ屋)が誕生しました。



5 三叉路

温泉場の中心地、三叉路。元湯4軒の他、昭和30年頃まで源泉・共同浴場、郵便局(写真1左)や、さいち(写真1右端)がありました。

写真2は昭和40年代の旧共同浴場移転後の様子(奥に見えるのが水戸屋)、写真3は現在の様子。



コラム ~温泉場の「源泉」と「共同浴場」~

秋保温泉の源泉は、当初三叉路の屏際にあり、昭和40年代までは自噴していました(温泉場の源泉数が増え自噴が止まったそうです)。

大正になって源泉の脇に「共同浴場」(露天風呂)ができ(現「秋保温泉湯元」停留所(佐勤側))、昭和7年の終わりに屋根付きの建屋となりました。この頃は男女の入口は別々でしたが、中は混浴でした。また、曇りだと源泉の温度が上がり、風が吹くと湧出が少なく温度が低くなりました。当時「かめちゃん」夫妻が切り盛りしていて、地域の人が集まるコミュニティでした。

昭和29年頃から老朽化と源泉湧出量低下にて閉鎖となりましたが、旅館組合と湯元契約会の協議に

より昭和42年から移転先を検討、現在の場所に移転し、今も憩いの場となっています。

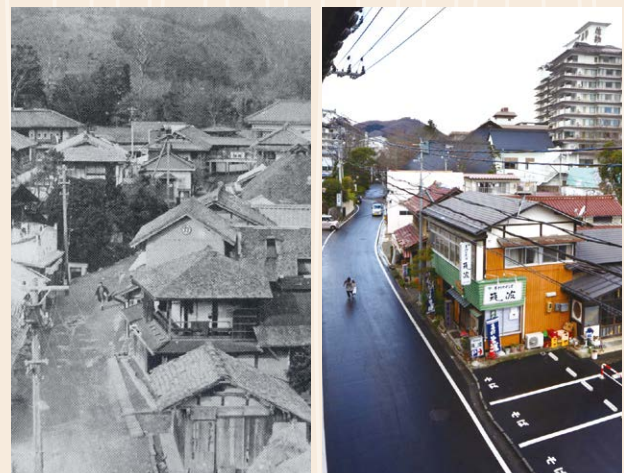


旧共同浴場

6 主婦の店さいち付近

視橋を渡り、温泉場中心部へ向かう旧二口街道は緩やかな登坂で、八丁坂と呼ばれていました。八丁坂を登り切ったところがこの地点で、昔からお店が並び、湯治客に限らず地元民にも親しまれています。

- ・マルカ:大正時代から続く八百屋さん。
- ・食事処 筑波:手打ちそばから定食まで。
- ・さいち:「秋保おはぎ」で有名。お惣菜も美味しい!
- ・ぶどうの樹:洋菓子屋。銘菓「秋保焼」や窯出しプリン。
- ・炭火焼肉春花:地元の人も集うお店。



大正時代の温泉場(写真左)と現在(写真右)。現在の「筑波」の場所には下駄屋さんがありました。

7 茶寮宗園の場所

現在の宗園の場所には、昭和33年までは湯元小学校があり(写真上・中)、その後王様風呂と25mの屋内温泉プールを備えたドリームランドができ、一世を風靡しました(写真下)。



10 湯の橋

戦後まではありませんでした。当時は渡石を利用して架けられた丸太や板橋だったそうです。

大正~昭和前期の様子。地元の子供は川で遊び、寒くなったら俗称「かさ湯」(現佐勤「河原の湯」・写真左)に浸かってあったそうです。



戦後、昭和24年、地域住民によって吊り橋が架けられました(工事中)。

昭和43年コンクリート橋に架け替えられました。



平成22年にコンクリート橋の隣に吊り橋が復元されました(歩道専用)。

9 湯神社・名取御湯碑

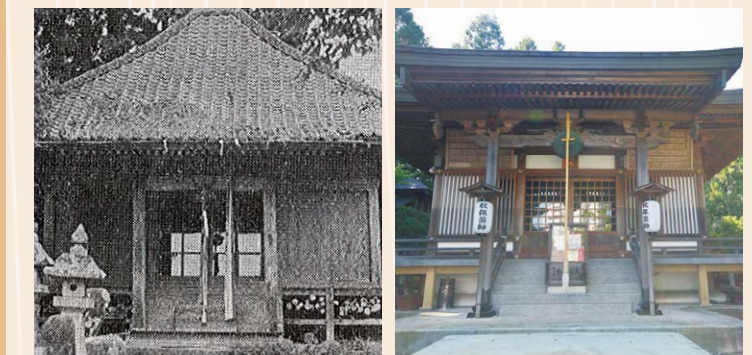
湯神社の創建期は不明ですが、慶安4(1651)年の棟札の記述より、それ以前からあったとされています。境内の「名取御湯碑」には、拾遺集に納められている「覚ぼつかな雲の通ひ路見てしかなとりのみゆけば跡はかもなし」の和歌、安政2(1855)年の大地震で源泉が枯渇するも、湯守寿右衛門が出羽三山に参拝し社殿を再建すると温泉が再湧出したことなどが記され、秋保温泉の守護神といわれています。



写真上は昭和50年前後、写真左下は現在の湯神社。写真右下は中にある堂宇。

8 泉明寺薬師堂

秋保温泉の守護仏を祀っています。慈覚大師・円仁の開創で、薬師堂に祀られている薬師如来像、日光・月光菩薩像は恵心僧都作とされています。



写真左は昭和50年前後、写真右は現在の泉明寺薬師堂。